

特別企画

講座コード

14260012

明治大学・福井県連携講座

福井藩と坂本龍馬



講座趣旨

幕末の福井藩は16代藩主松平春嶽の能力主義による人材登用等の藩政改革により、当時の日本の中で注目された藩でした。

その福井藩に興味を持ち、密接な関係を持っていたのが、“幕末の風雲児”坂本龍馬。

龍馬はその生涯の中で、二度福井藩を訪れており、その際に由利公正と会談し、日本の将来を語り合ったとされています。

今年発見された龍馬が後藤象二郎に宛てた手紙の草稿の中でも、新政府の財政担当者として「三八(由利)をおいてほかに人はいない」と断言するほど高く評価していました。

この講座では、福井藩と龍馬の関係性を中心に学んでいきましょう。

講義概要

曜日	土曜日
時間	13:00~14:30
定員	50名
回数	4回
受講料	5,000円
教材	レジュメ資料
ポイント	対象外

日程	内容	講師
1 12/13(土)	文久三年の三岡八郎(由利公正)と坂本龍馬	吉田
2 12/20(土)	福井藩と坂本龍馬—新発見書簡を中心に—	角鹿
3 1/10(土)	横井小楠と坂本龍馬	須田
4 1/31(土)	「広義」の制度化と五箇条の誓文	落合

講師紹介 ◆◆◆◆◆



よしだ たけし

吉田 健 元福井県文書館古文書調査員

昭和21年生まれ。福井県立高校教諭を経て、福井県総務部県史編さん課で県史編さんに携わる。県文書館古文書調査専門員。

著書『文久三年の龍馬と福井藩』(県文書館研究紀要)、「福井藩家中絵図を照合する」(県文書館研究紀要)



つの が なおかつ
角鹿 尚計

福井市立郷土歴史博物館副館長・学芸員

昭和35年生まれ。福井市立郷土歴史博物館副館長・学芸員。歌誌『短歌人』同人。月光の会会員。日本芸家協会・日本ペンクラブ会員。神職。著書：『知られざる福井の先人たち』(フェニックス出版)『ふくい女性風土記』(中日新聞本社)『ことばの動物史—歴史と文学からみる—』(明治書院)他共著：『福井市史』通史編古代・中世。『ふくい女性の歴史』『福井県神社誌』『瑞源寺と松平吉品』他、論文・随想・史料紹介多数。



すだ つとむ

須田 努 明治大学情報コミュニケーション学部教授

1959年、群馬県高崎市生まれ。専門は日本近世・近代の社会文化史・異文化コミュニケーション史です。現在の研究課題は、社会文化史の観点からは、幕末から明治初年における大衆芸能と社会との関係、異文化コミュニケーション史の視点からは、薩摩の朝鮮人陶工の村や、吉田松陰に見る征韓論形成の問題などです。朝鮮・中国との関係から日本近世・近代史を考察したいと考えています。



おちあい ひろき

落合 弘樹 明治大学文学部教授

専門は幕末・維新史。武家の解体という側面を中心に明治維新を再検討している。著書に『秩禄処分—明治維新と武士のリストラ—』(中公新書 1999年)、『明治国家と士族』(吉川弘文館 2001年)、『西郷隆盛と士族』(吉川弘文館 2005年)、『西南戦争と西郷隆盛』(吉川弘文館 2013年)など。